TEAC®

STEREO CASSETTE DECK

V-8000S

5700130700

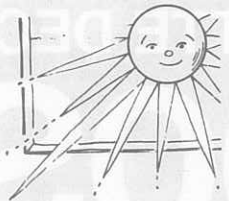
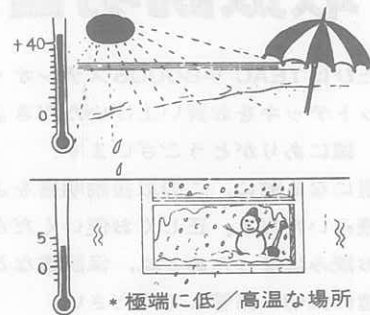
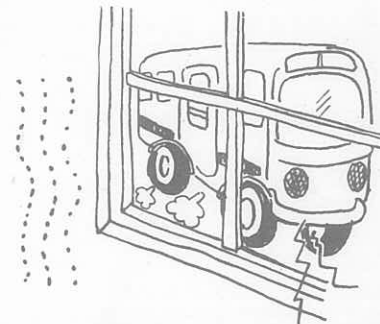
■ 取扱説明書

このたびはTEAC V-8000Sステレオ・カセットデッキをお買い上げいただきまして，誠にありがとうございます．
ご使用になる前に，この取扱説明書をよくお読みいただき，正しくお使いください．お読みになったあとは，保証書などと一緒に大切に保管してください．

目次

ご使用の前に

■設置／使用上のご注意

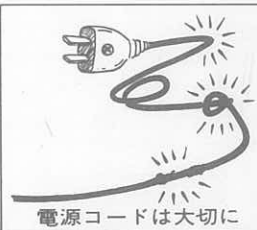
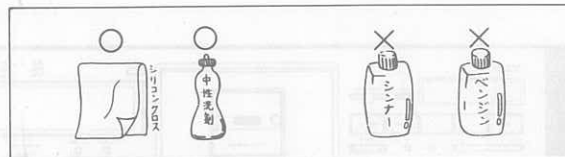
つぎのような場所への設置，取扱いに注意

＊ドルビーノイズリダクション及びHXプロヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HXプロはバングアンドオルフセンの考案です。

＊「ドルビー」，ダブルD記号及び「HXプロ」はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

コードを持って引っぱらない

電源コードは大切に

●パネルおよびケースなどの清掃はシリコンクロスなどの柔かい布を使用し，汚れがひどい場合には水で薄めた中性洗剤液を含ませて軽く拭いてください。シンナーやベンジンなどの溶剤は，文字を消してしまうことがありますので使用しないでください。

深夜の音楽鑑賞は，隣近所の迷惑にならないように，音量を下げるかヘッドホンを使用してお楽しみください。

●本機に水などの液体や可燃物またはピンなどの金属類を入れないように注意してください。万一，このようなことが起こった場合は，大変危険ですのですぐに電源コンセントからプラグを抜いて，裏表紙に記載された当社もよりの営業所などにご連絡ください。

カセットテープについて

■録音時間

往復録音時間が60分のC-60が標準です。他にC-90(往復90分)，C-30(同30分)，C-120(往復120分)などがあります。

■テープのトラック

カセット・テープのトラックは，2トラック・モノと4トラック・ステレオの2種類の使いかたがあり，ステレオとモノが共用できるように，①図のようなトラック方式(コンパチブル方式)になっています。このため，ステレオで録音したカセットをモノ機で，また逆にモノで録音したカセットをステレオ機で再生することができます。

■面(SIDE)について

上記のようなトラック方式になっていますので，片面を録音・再生したあとでカセットを裏返して，もう片面の録音・再生ができます。(②図)

■誤消去防止用つめ

カセット・テープには，大切に保存しておきたい貴重な録音内容を誤って消してしまうというようなミスを防ぐために，誤消去防止用のつめがあります。このつめはカセットのA(1)面，B(2)面用にそれぞれあり，ドライバーの先などで折って取り除くと，その面には誤消去防止装置が働いて録音ができなくなります。

一度つめを折ったカセット・テープに再度録音をしたいときには，つめを取り除いたあとの穴をセロファン・テープなどを貼ってふさいでください。(③・④図)

(クローム検出孔をふさがないように)

■テープの自動検出孔について

カセット・ハーフにはテープ検出孔が付いています。オート・テープ・セレクター機では，テープの種類が自動検出されます。(⑥図)

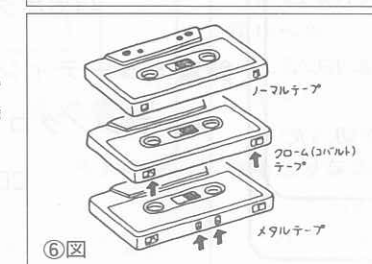
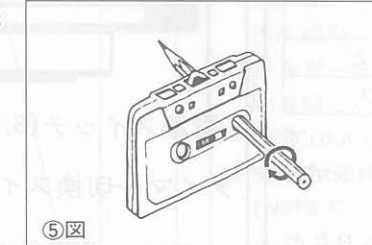
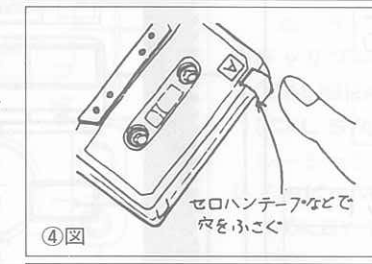
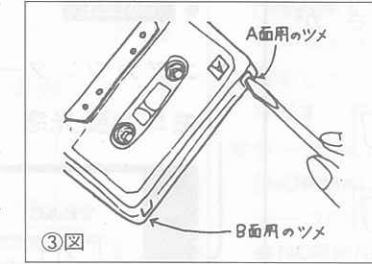
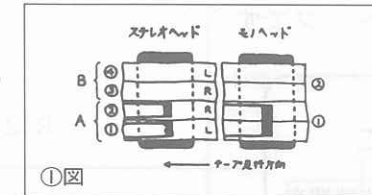
①図

②図

③図

④図

⑤図

⑥図

■本機におすすめしないカセット・テープ

つぎのようなカセット・テープを使用すると，正常な動作や性能が得られないことがあります。ご注意ください。

●カセットの形状精度の悪いカセット・テープ

カセットが変形していたり，裏返すとテープの走行位置がずれるものや，早送り中に異音を生ずるカセットは要注意。

●ロー・コスト・カセット・テープ

低価格にするためにガイド・ローラーやパッド・スプリングを省略したり，シールド効果が悪いなど，信頼性に欠けるものがあります。

●C-120カセット・テープ

C-120は，テープ自身が大変薄くて弱いため伸びやすく，ワウ・フラッター（音のふるえ）特性も良くない上，磁性体のコーティング厚も薄いため特にひずみやすく，取扱いに注意が必要です。ピンチ・ローラーやキャプスタンのクリーニングが不完全な場合，テープが巻き込まれて思わぬトラブルを起こすこともあります。

■テープの「たるみ」

カセット・テープを録音・再生する前に，カセットの中のテープがたるんでいないか確かめてください。たるんだままで使うと，テープがキャプスタンなどに巻き込まれて使いものにならなくなることがあります。鉛筆などでたるみを巻取りましょう。(⑤図)

■取扱い上のご注意

●カセットを開けたり，テープを引き出したりしないでください。

●テープの磁性体コーティング面に直接手を触れないでください。カビが生える原因になります。

●ゴミやホコリの多い場所に放置しないでください。

●高温・多湿の場所での使用・保管は避けてください。

●強磁場での使用・保管は避けてください。雑音が入ったり，録音内容が消えてしまうことがあります。

■エンドレス・カセットについて

本機ではエンドレス・カセットを使用することができません。

各部の名称と働き

(　)内の数字は説明のある主なページです。

〔TAPE LENGTH〕スイッチのセットについて

本機のリニアカウンターは，録音・再生時間を"分・秒"で表示します．テープ(長さ)の違いによるカウンター表示の誤差を小さくするために，**使用するカセットに合せて必ず〔TAPE LENGTH〕スイッチをセットしてください．**

〔TAPE LENGTH〕スイッチを押すと，リニアカウンターに"テープ長さ"が表示されます。

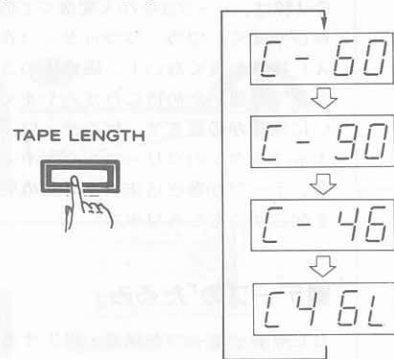



表　示	適応するカセット
C-60	C-60/50など
C-90	C-90/80など
C-46	C-46/30/10など
C46L	C-46ラージハブ

- リニアカウンターは時計ではありませんので，実際の録音，再生時間とカウンターの表示との間には誤差が発生します．
- いったん電源を切ると，次に電源を入れたときは C-60 が設定されます．
- セット後，約5秒間はテープ長さを表示し，その後はカウンター表示に戻ります．
- 長さの異なるカセットの入替，電源を切った後は再びテープ長さをセットしてください．

RTZボタン(12)

クリアー・ボタン(10)

インジケーター
- CD SYNC
- REC
- PLAY
- PAUSE

リニアカウンター

リモコン受光窓

カセットホルダー(8, 11)

オートモニター切換スイッチ(10)

MPXフィルター・スイッチ(8)

ドルビーNR切換スイッチ(8, 11)

電源スイッチ(8, 11)

タイマー切換スイッチ(13)

CPSボタン(12)

録音ミューティング・ボタン(9)

オープン／クローズ・ボタン(8, 11)

CDシンクロ・ボタン(15)

テープ走行操作ボタン
- 停止ボタン〔STOP〕
- 再生ボタン〔▶〕
- 一時停止ボタン〔❚❚〕
- 録音ボタン〔RECORD〕
- 早送り／巻戻しボタン〔◀◀／▶▶〕

CDチェックボタン(10)

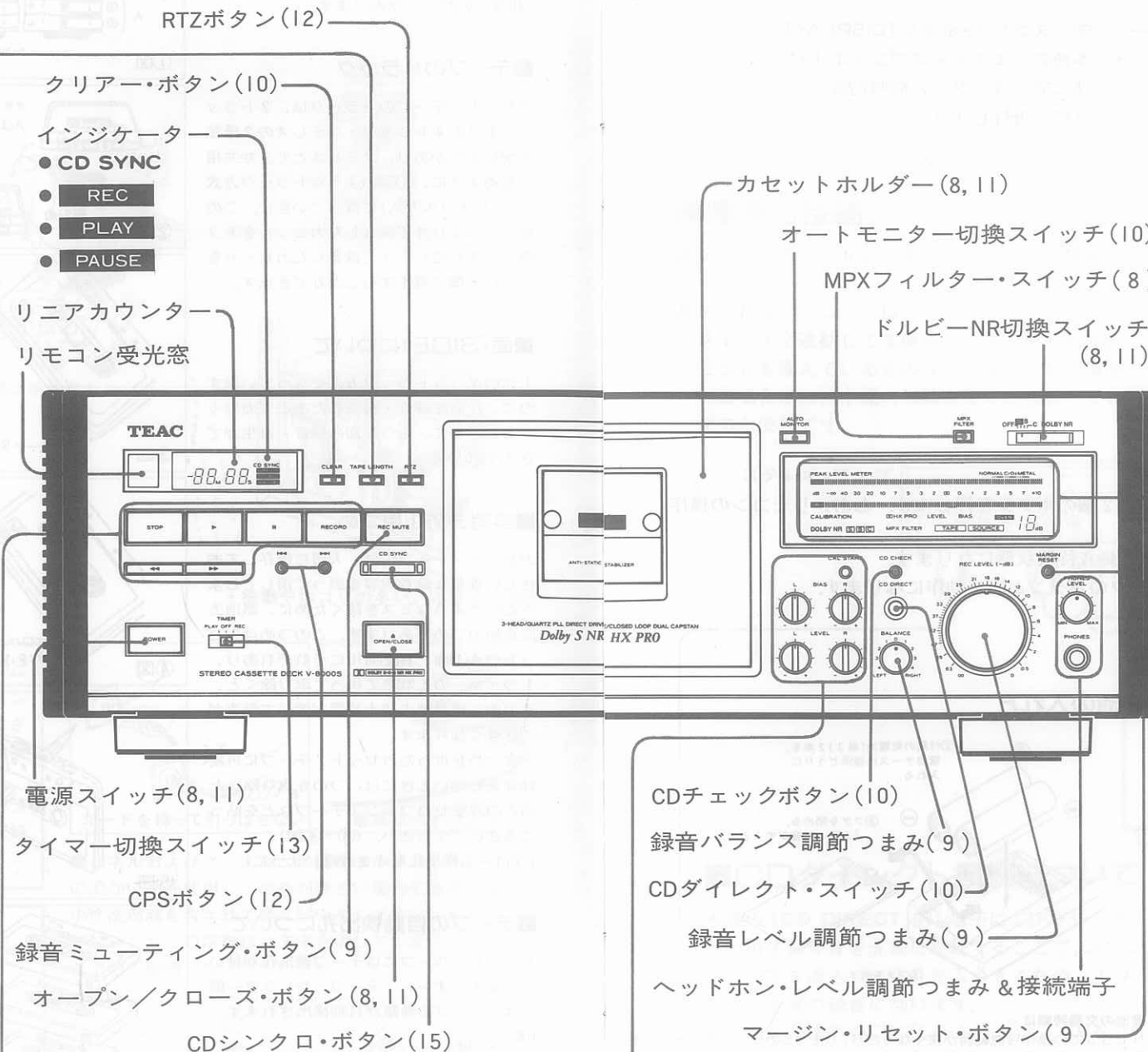
録音バランス調節つまみ(9)

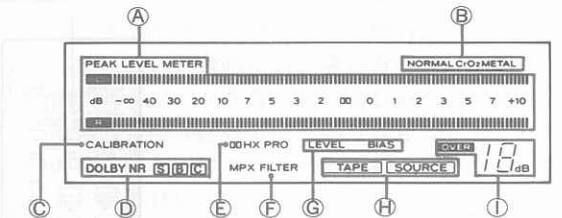
CDダイレクト・スイッチ(10)

録音レベル調節つまみ(9)

ヘッドホン・レベル調節つまみ＆接続端子

マージン・リセット・ボタン(9)

キャリブレーション・ボタン＆バイアス／レベル調節つまみ(14)

マルチ・ディスプレイ

本機の動作状態，または各種モードに応じて表示します．

Ⓐ**ピーク・レベル・メーター**
〔PEAK LEVEL METER〕
ソースおよびテープ・モニター時の信号レベルを表示します．Lは左チャンネル，Rは右チャンネルです．(−7dB以上は2秒間のピークホールド)

Ⓑ**テープ・インジケーター**
〔NORMAL／CrO_2／METAL〕
テープの種類を表示します．
●NORMAL：ノーマル・テープ，CrO_2：クローム・テープ，METAL：メタル・テープ

Ⓒ**キャリブレーション・インジケーター**
〔CALIBRATION〕
〔CAL START〕ボタンを押すと点灯し，キャリブレーションを表示します．

Ⓓ**ドルビーNRインジケーター**
〔DOLBY NR S／B／C〕
〔DOLBY NR〕スイッチをセットするとドルビーNR回路に応じて点灯します．

Ⓔ**ドルビーHXプロ・インジケーター〔DD HX PRO〕**
録音時に点灯し"ドルビーHXプロ"の作動を示します．

Ⓕ**MPXフィルター・インジケーター〔MPX FILTER〕**
〔MPX FILTER〕スイッチを押してONで点灯します．

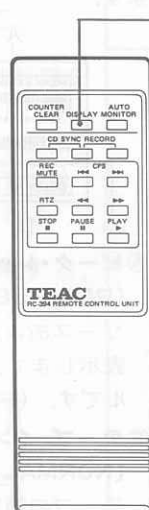
Ⓖ**レベル／バイアス・インジケーター**
〔LEVEL／BIAS〕
キャリブレーション中に点灯し，レベル(LEVEL)／バイアス(BIAS)の各状態を示します．

Ⓗ**モニター・インジケーター〔TAPE／SOURCE〕**
テープ(TAPE)／ソース(SOURCE)それぞれのモニター状態を表示します．

Ⓘ**レベル・インジケーター〔OVER／dB〕**
モニター状態(TAPE／SOURCE)に応じた信号レベルを 0〜12(dB)または OVER(13dB以上)で表示します．

＊表示は，〔MARGIN RESET〕ボタンを押すか，電源が切られるまで保持します．

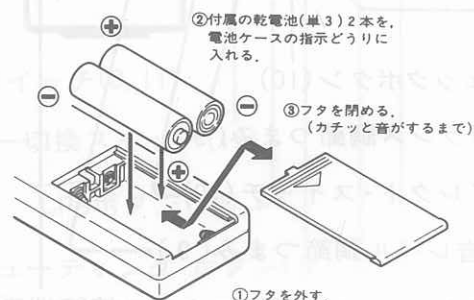
■リモートコントロールユニットRC-394

本機の前面パネル(リモコン受光窓)に向けて操作してください.

ディスプレイ・ボタン〔DISPLAY〕
本機のマルチディスプレイおよびリニアカウンターの照明(表示)を点灯一消灯します.

- 〔RECORD〕ボタン, 〔CD SYNC〕ボタンは ⌐¬ で示される2個のボタンを押します. なお, リモコンの操作では〔RECORD〕ボタンを押すと録音が始まります.
- 〔PAUSE〕ボタン, 2個の〔RECORD〕ボタンの順に押すと録音待機状態になります.
- 〔DISPLAY〕以外のボタンは, 本機の同じ名称またはマークのボタンと同じ動作になります.
- リモコンのボタンは1つ1つを確実に押してください.

使用上のご注意

- 本機との間に障害物があったり, 本機前面との角度が悪いとリモコン操作できない場合があります.
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり, 赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると, 本機は誤動作することがあります. 逆に赤外線によってコントロールされる他の機器を使用時に本機のリモコンを操作すると, その機器を誤動作させることがあります.
- リモコンの操作可能範囲が極端に狭くなってきたら電池を交換してください.
- 長い間(1か月以上)リモコンを使用しないときは, 電池の液もれを防ぐために電池を取出してください. もし液もれを起こしたときは, ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください.

電池の入れ方

電池の交換時期は…
リモコンでの操作可能範囲が狭くなったり, リモコンの操作ボタンを押しても本機が動かない場合は, 電池が消耗しています. 新しい電池に2本とも交換してください.

電池についてのご注意
乾電池を誤って使用すると, 液漏れや破裂などの危険があります. 次の点について, 特にご注意ください.

1. 乾電池の⊕と⊖の向きを, 電池ケースの指示どうりに正しく入れてください.
2. 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください.
3. 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります. 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください.
4. 電池には充電式と充電式でないものがあります. 電池の注意表示をよく見てご使用ください.

接　続

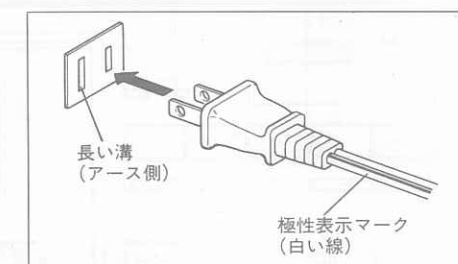
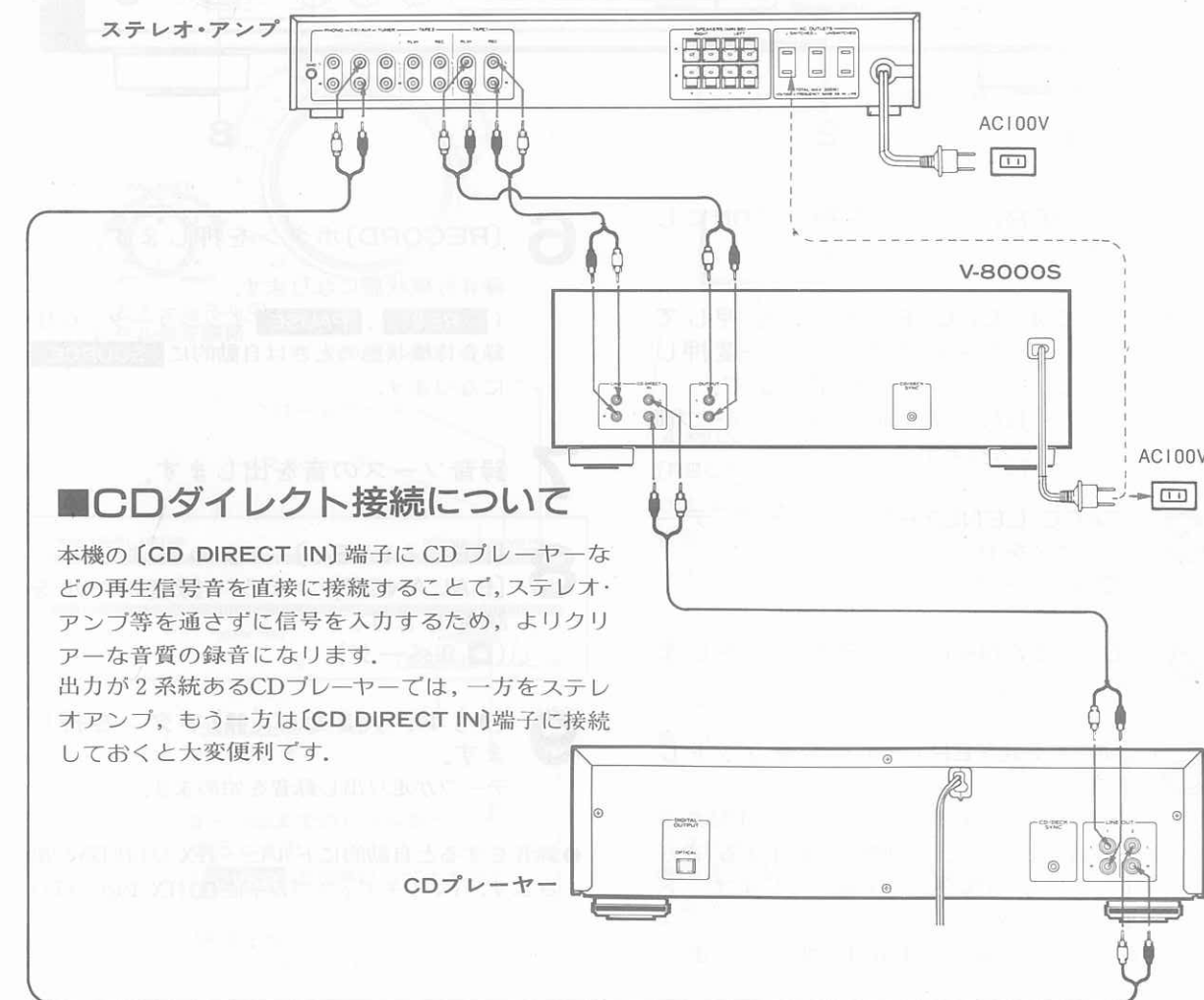
■ステレオ・アンプとの接続

- 接続するステレオ・アンプの取扱説明書をよくお読みの上, 必ずステレオ・アンプの電源を切ってから接続してください.
- ピン・プラグ・コード(付属の入出力コード)は, 〔L〕(左チャンネル)を白, 〔R〕(右チャンネル)を赤と決めて接続すると, チャンネルをまちがえる心配がありません.

■電源の接続

- 必ずAC(交流)100Vの電源コンセントに接続してください.
- ステレオ・アンプには, ステレオ・アンプの電源スイッチに連動して電源が入切する補助電源コンセントを備えているものがあります. もし備えている場合には, 本機の電源をそこからとって利用すると便利です.

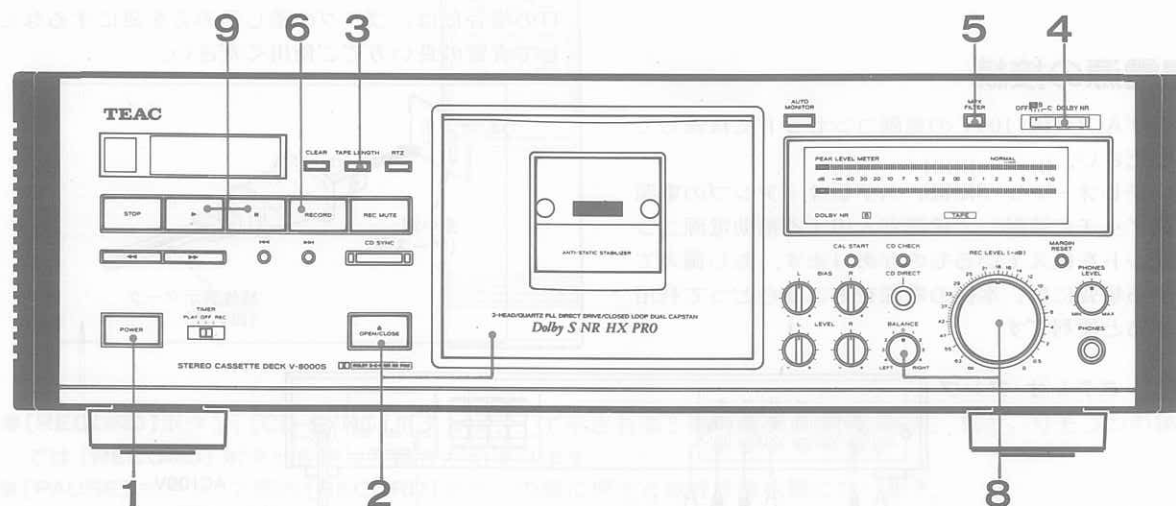
電源の極性管理について

本機の電源コードには, より良い音質を得るために電源の極性管理がしやすい **"極性表示マーク(白い線)"**が入っています. この極性表示マークの入った方が, 本機の**アース側**です. 家庭用コンセントの差し込み口は, 一般的に長い溝の方がアース側ですので極性表示マークを合わせて差し込んでください.
なお極性管理がされていないコンセントの差し込み口の場合には, プラグの差し込み方を逆にするなどして音質の良い方でご使用ください.

■CDダイレクト接続について

本機の〔CD DIRECT IN〕端子にCDプレーヤーなどの再生信号音を直接に接続することで, ステレオ・アンプ等を通さずに信号を入力するため, よりクリアーな音質の録音になります.
出力が2系統あるCDプレーヤーでは, 一方をステレオアンプ, もう一方は〔CD DIRECT IN〕端子に接続しておくと大変便利です.

録音

準備

1．電源を入れる前に，〔TIMER〕スイッチをOFFにします．
2．〔BIAS〕，〔LEVEL〕つまみは通常センター（クリック位置）にします．
（14ページ）
3．〔CD DIRECT〕スイッチをOFF（⊓）にします．CDなどから音声信号を直接入力させる場合はON（⊔）にします．（10ページ）
●C-120カセットは使用しないでください．
（3ページ）

1 〔POWER〕スイッチを押してONにします．

2 〔OPEN／CLOSE〕ボタンを押してカセットを入れます．もう一度押してカセットホルダーを閉じます．
カセットは録音したい面を手前に，テープ面を下にして入れます．

3 〔TAPE LENGTH〕スイッチで"テープ長さ"をセットします．
（4ページ）

4 〔DOLBY NR〕スイッチをセットします．（B，C，SまたはOFF）

5 〔MPX FILTER〕スイッチをセットします．
ドルビーNRスイッチをONにして，FM放送を録音時にドルビー回路が誤動作する（音が不安定になる）場合はIN（⊔）にします．ドルビー回路が誤動作しなかったり他のソースなど，通常の録音ではOUT（⊓）にしておいてください．

6 〔RECORD〕ボタンを押します．
録音待機状態になります．
（REC，PAUSE インジケーター点灯）
録音待機状態のときは自動的に SOURCE になります．

7 録音ソースの音を出します．

8 〔REC LEVEL〕つまみおよび〔BALANCE〕つまみで録音レベルを調節します．
（9ページ）

9 〔▶〕ボタンまたは〔❚❚〕ボタンを押します．
テープが走り出し録音を始めます．

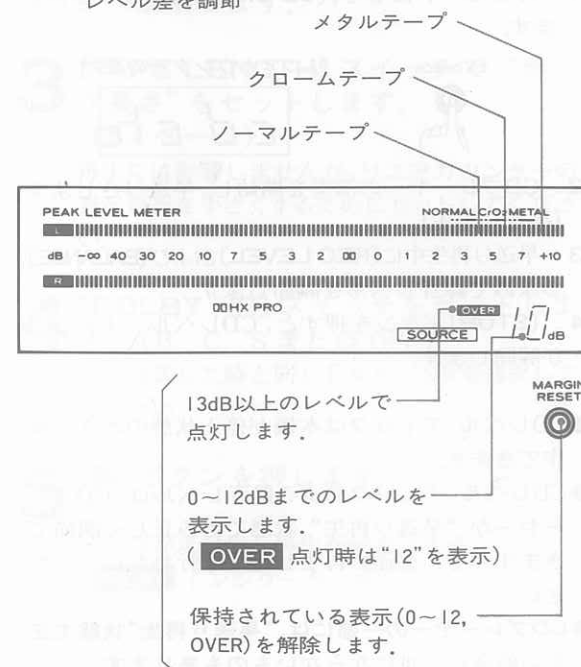
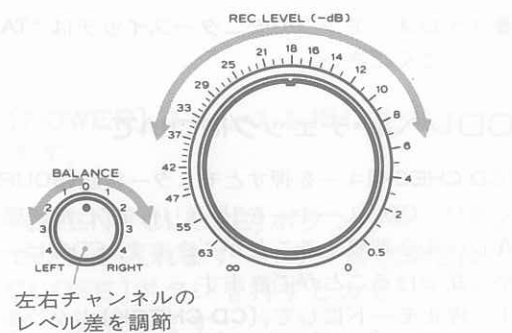
●録音をすると自動的にドルビーHXプロ回路が働きます．（マルチディスプレイにDD HX PRO点灯）

■録音レベルの調節

録音レベルを上手に設定することで，テープの特性を十分に引出した録音を行うことができます．
録音レベルが低すぎるとヒス・ノイズの目立った録音になり，逆に高すぎる場合はひずんだ音で録音されます．

方法

1 〔AUTO MONITOR〕スイッチで SOURCE にします．
録音一時停止状態では自動的に　　　　になります．

2 録音ソースが最大のとき，PEAK LEVEL METER上の指示範囲内になるよう，〔REC LEVEL〕つまみおよび〔BALANCE〕つまみで調節します．

■曲と曲の間に「空白」（ブランク）を作るには
—録音ミューティング—

録音中のコマーシャルをカットしたり，曲と曲の間にブランクを作ることができます．

1 録音中，曲の終りなどで〔REC MUTE〕ボタンを押します．

①ボタンが押されると約4秒間の無信号録音を行った後
（REC インジケーター点滅）
②録音一時停止状態になります．
（REC PAUSE インジケーター点灯）

2 次の録音を始めるときに〔▶〕ボタンまたは〔❚❚〕ボタンを押します．

録音を再開します．
（PAUSE インジケーター消灯）

または

4秒以上のブランクを作るには
〔REC MUTE〕ボタンを押した後もそのまま押し続けます．4秒以上押し続けて指を離すと，一時停止状態になります．再び録音を始めるには，〔▶〕ボタンまたは〔❚❚〕ボタンを押します．

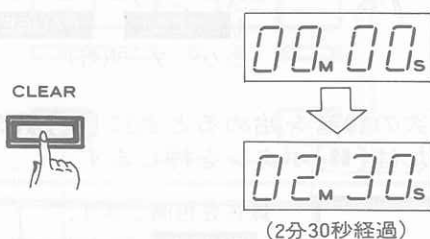
4秒以下のブランクを作るには
録音ミューティング中に，一時停止する前にもう一度〔REC MUTE〕ボタンを押します．無信号録音状態から通常の録音に変ります．
（〔REC MUTE〕ボタンの代りに〔❚❚〕ボタンを押すと，ただちに録音一時停止となります．〔▶〕または〔❚❚〕ボタンを押すと，録音を再開します）
●録音一時停止中に〔REC MUTE〕ボタンを押すと，録音ミューティングが始まり，約4秒後に一時停止します．

カセットホルダーの開閉について

本機のカセットホルダーはパワー・ローディング方式のため，電源をONにして〔OPEN／CLOSE〕ボタンを押すと開閉できます．
カセットホルダーが開いている状態から，テープ走行操作ボタン(▶，STOP，RECORD など）を押すと，自動的に閉まって動作を始めます．
カセットホルダーは手で押しても閉まります．

おおよその録音時間を調べるには

録音を開始する頭で〔CLEAR〕ボタンを押します．
リニアカウンターがリセットされ経過時間を表示します．

(2分30秒経過)

〔CD DIRECT〕スイッチについて

〔CD DIRECT IN〕端子に入る信号を選びます．

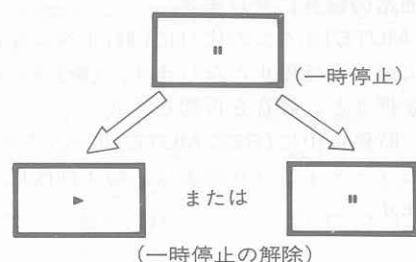
●〔CD DIRECT〕スイッチを押してON（▬）にすると〔CD DIRECT IN〕端子の信号が優先して入力し，OFF（⊓）で〔LINE IN〕端子の入力に切換ります．

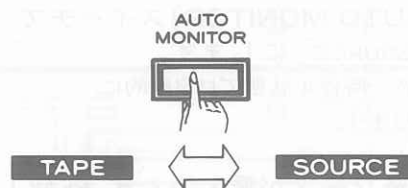
CD DIRECT

●〔CD DIRECT IN〕端子からの入力信号は，〔BALANCE〕つまみの調節ができなくなります．

録音の一時停止と開始

録音中に〔❚❚〕ボタンを押します．（ PAUSE 点灯）
録音状態のままテープ走行を停止します．〔▶〕ボタンまたは〔❚❚〕ボタンを押すと再び録音を開始します．

(一時停止の解除)

録音状態の確認

本機は，録音ヘッド，再生ヘッド，消去ヘッドがそれぞれ独立した３ヘッド方式になっています．このため，録音中のモニターは，ソースの音（これから録音される音）とテープの音（テープに記録された音）を比較することができます．
〔AUTO MONITOR〕スイッチを押すたびにソースの音とテープの音が切り換わります．

●本機はオート・モニター方式のため TAPE と SOURCE が自動的に設定されますが，〔AUTO MONITOR〕スイッチでモニター状態を切り換えることができます．（電源を入れた時は TAPE になります）

●ステレオ・アンプのモニタースイッチは“TAPE”にしてください．

CDレベル・チェックについて

〔CD CHECK〕キーを押すとモニター状態（SOURSE）になり，CDプレーヤーを“早送り再生”した状態で録音レベルを調整することができます．CDのピークを早く見つけることができます．

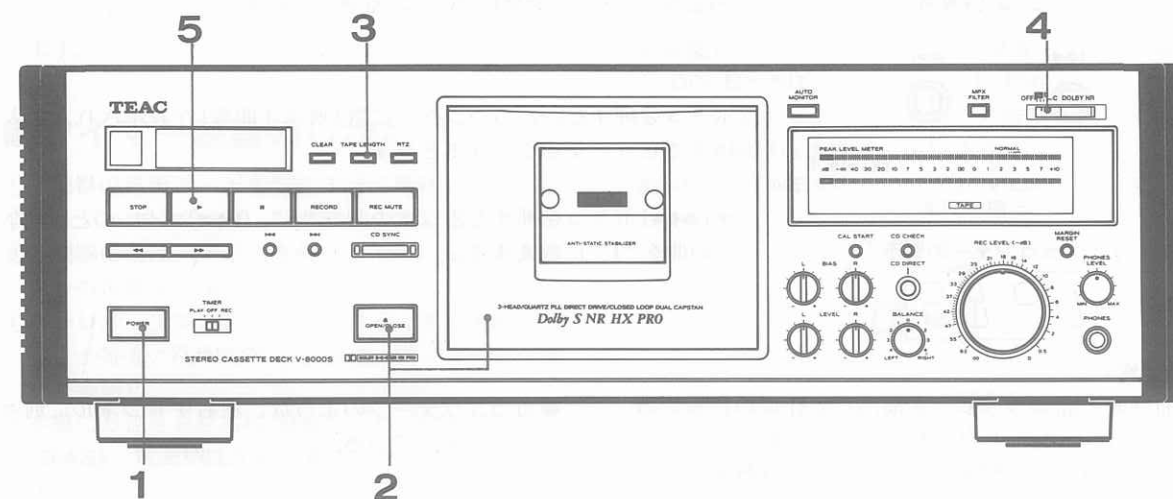
1．停止モードにして，〔CD CHECK〕ボタンを押します．

2．CDプレーヤーの演奏を開始し，早送りさせます（早送り再生）．
3．早送り再生中に〔REC LEVEL〕および〔BALANCE〕つまみで録音レベルを調節します．
4．〔STOP〕ボタンを押すと，CDレベル・チェックが解除します．

●CDレベル・チェックは本機が停止状態のときに操作できます．
●CDレベル・チェックによる録音レベルは，CDプレーヤーが“早送り再生”状態でのみ正しく調節できますので，普通の再生状態では行わないでください．
●**CDプレーヤーの一部には，“早送り再生”状態で正しい録音レベルにならないものもあります．**

再　生

準備

1．電源を入れる前に，〔TIMER〕スイッチを OFF にします．

1 〔POWER〕スイッチを押して ON にします．

2 〔OPEN／CLOSE〕ボタンを押してカセットを入れます．もう一度〔OPEN／CLOSE〕ボタンを押すとカセットホルダーが閉じます．

3 〔TAPE LENGTH〕スイッチで“テープ長さ”をセットします．
（☞ 4 ページ）
再生には影響しませんが，リニアカウンターの表示誤差を小さくするためにセットしてください．

4 〔DOLBY NR〕スイッチをセットします．（B，C，S または OFF）
必ず録音した時と同じドルビーNRを選択してください．

5 〔▶〕ボタンを押します．

テープが走り出し再生が始まります．
（ PLAY インジケーター点灯）

カセットホルダーを開いた状態からの動作

カセットホルダーを開いた状態で直接〔▶〕ボタンを押すと，カセットホルダーが自動的に閉まり，再生を始めます．また，その他のボタン（◀◀，▶▶，❚❚ など）を押しても，押したボタンの動作に入ります．

ドルビーHX PROについて

ドルビーHX PROは録音のときにだけ動作する回路です．テープを再生するときには働きません．

再生時間を知るには

再生を始める頭で〔CLEAR〕ボタンを押してリニアカウンターをリセットします．再生とともに経過時間が表示されます．

便利な機構とその使いかた

■CPS*——発選曲して再生を始めるには—

今あるところから，前または後へ飛び越して再生を始めます．

前へ戻すときは〔⏮〕ボタン，後へ送るときは〔⏭〕ボタンを押します．

ボタンを押すたびにカウンターに数(飛ばす曲数)が表示され，最大15までセットすることができます．

＊〔⏭〕ボタンを押すときは次の曲を“1”，〔⏮〕ボタンのときは今の曲を“1”に数えます．

〔ご注意〕

選曲は曲と曲のブランクを検出して行なわれるため，次のようなカセットは誤動作することもあります．

- ●曲間のブランクが4秒以下，ブランクの中に大きな雑音が入っている．
- ●曲の間にピアニシモのような低レベルの音が続くとき．
- ●カラオケテープのような，左右チャンネルに別々の音が入っている．

＊CPS：Computomatic Program Search

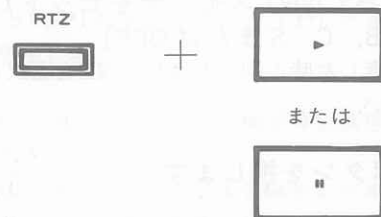
■RTZ*—リニアカウンターの 00.00 位置を探すには—

〔RTZ〕ボタンを押します．

テープは早送りまたは巻戻しが始まり，カウンターの 00.00 位置で停止します．

00.00 から再生を始めるには

〔RTZ〕ボタンが押されてテープが走っているときに，〔▶〕ボタンを押します．00.00 位置で一旦停止後，再生を開始します．

- ●〔▶〕ボタンの代りに〔⏸〕ボタンを押すと，00.00 位置で再生一時停止状態になります．再生の開始は〔▶〕または〔⏸〕ボタンを押します．
- ●録音状態にあるときは〔RTZ〕ボタンを受付けません．

＊RTZ：Return to Zero

タイマー録音・再生

オーディオ・タイマー(別売)と組合せて，留守中や就寝後のお好きなFM放送番組などを何回でも録音を行なうことができます．また，お好きなミュージック・テープなどを装着すれば希望の時刻に演奏を始める“**モーニングコール**”などの再生にも使用できます．

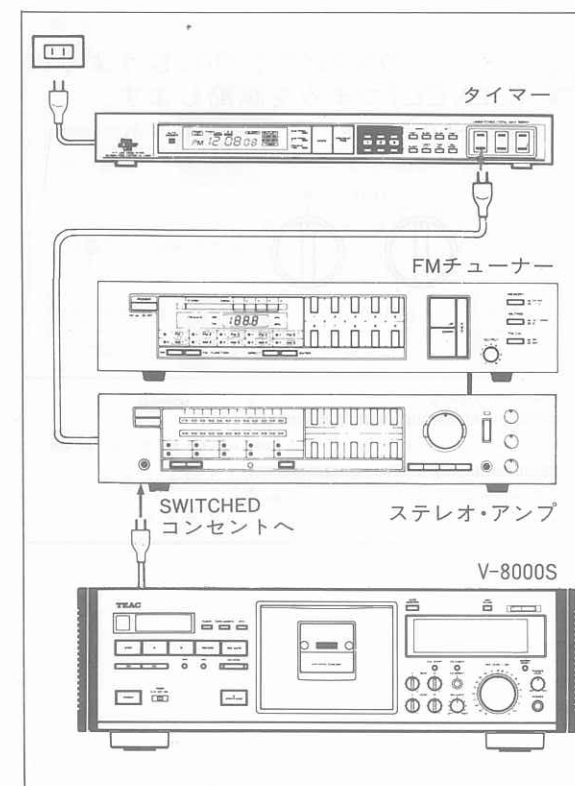
■タイマー録音のしかた

①各機器の電源コードを図のように接続します．
②オーディオ・タイマー(別売)をONにします．
③各機器の電源スイッチを押してONにし，チューナーの選局をします．
④ステレオ・アンプの入力切換スイッチ，〔REC〕スイッチ等を“TUNER”にします．(アンプの取扱説明書参照)
⑤本機にカセットを入れ，録音レベル，〔DOLBY NR〕，〔BIAS〕，〔LEVEL〕などをセットします．
⑥オーディオ・タイマーを希望の時刻にセットします．(各機器への電源が切れます．)
⑦本機の〔TIMER〕スイッチを“REC”にします．

●指定時刻になると数秒後に録音が始まります．

■タイマー再生のしかた

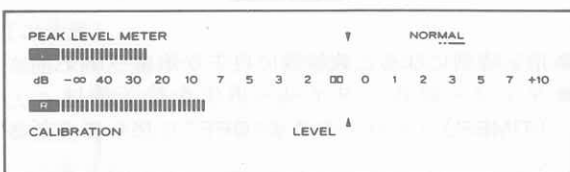
①各機器の電源コードを図のように接続します．
②オーディオ・タイマー(別売)をONにします．
③ステレオ・アンプをTAPEにします．
④本機にミュージック・テープを入れ，本機の〔DOLBY NR〕などをセットします．
⑤オーディオ・タイマーを希望の時刻にセットします．(各機器への電源が切れます．)
⑥本機の〔TIMER〕スイッチを“PLAY”にします．

- ●指定時刻になると数秒後に再生が始まります．
- ●タイマー録音／タイマー再生を終了後は，〔TIMER〕スイッチを必ず“OFF”に戻してください．

バイアス，レベル(感度)の設定について(キャリブレーション)

カセットはメーカーやタイプにより「特性」がそれぞれ異なります．使用するカセットに合せてバイアスとレベル(感度)を適正にすることで，カセットの特性に合った録音を行うことができます．

1 録音するカセットを入れます．

2 〔CAL START〕ボタンを押します．

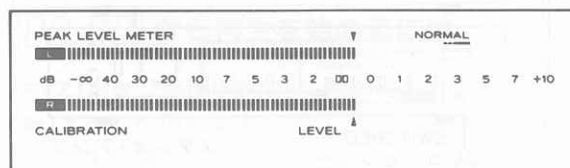
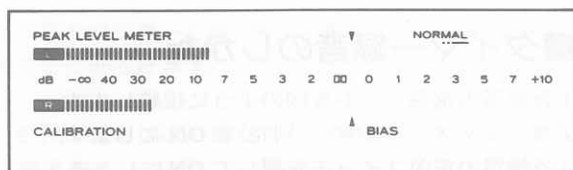
PEAK LEVEL METER　NORMAL
dB -∞ 40 30 20 10 7 5 3 2 1 0 1 2 3 5 7 +10
CALIBRATION　LEVEL

(CALIBRATION，LEVEL，▼ 点灯)

3 〔RECORD〕と〔▶〕ボタンを押して録音を始めます．
内蔵のテストトーンが録音されます．

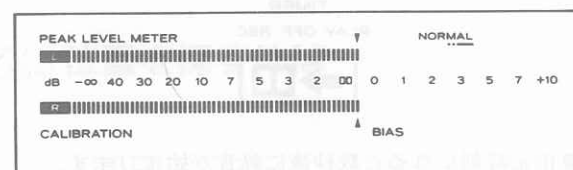
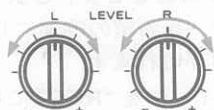
4 メーターの振れが ▼ 印に合うように〔LEVEL〕つまみを調節します．(L，R共)

PEAK LEVEL METER　NORMAL
dB -∞ 40 30 20 10 7 5 3 2 1 0 1 2 3 5 7 +10
CALIBRATION　LEVEL

5 もう一度，〔CAL START〕ボタンを押します．

PEAK LEVEL METER　NORMAL
dB -∞ 40 30 20 10 7 5 3 2 1 0 1 2 3 5 7 +10
CALIBRATION　BIAS

(LEVEL消灯，BIAS点灯)

6 メーターの振れが▼印に合うように〔BIAS〕つまみを調節します．(L，R共)

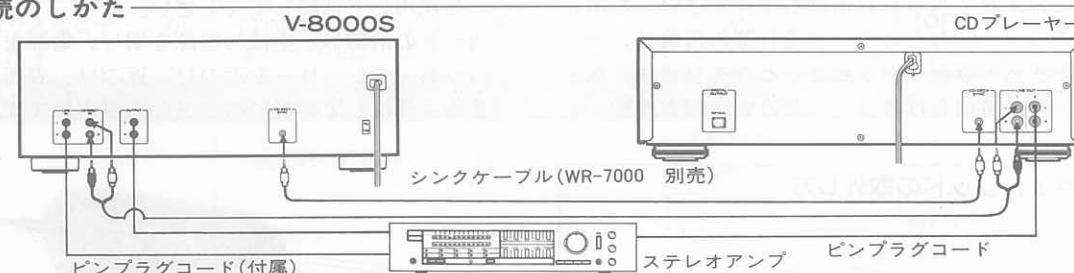
PEAK LEVEL METER　NORMAL
dB -∞ 40 30 20 10 7 5 3 2 1 0 1 2 3 5 7 +10
CALIBRATION　BIAS

以上で最適なバイアス／レベル(感度)が設定されました．〔STOP〕ボタンを押して，キャリブレーションを終了します．録音されたテストトーンは消去するか，テープを戻してから通常の録音を行ってください．

- キャリブレーションを完了後もう一度〔CAL START〕ボタンを押し，LEVEL／BIASを再確認してください．(BIASの変更によりLEVELも変動することがあります)
- キャリブレーション中は〔CAL START〕ボタンを押すたびに，LEVEL／BIASの各状態を切り換えることができます．
- LEVEL／BIASを調節後は，設定位置にシールを貼るなどして印しておくと，後で録音するときの再設定が容易です．

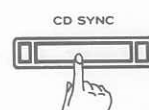
CDシンクロ・ダビング

準備

- 本機と弊社の〔CD／DECK SYNC〕端子付CDプレーヤーにシンクケーブル(WR-7000 別売)を接続します．(下図参照)
- ステレオアンプは"ファンクション"をCDにします．
- 本機にカセットを装着し，〔REC LEVEL〕，〔DOLBY NR〕等をセットします．(9ページ参照)

接続のしかた

- CDとステレオアンプの接続に"光ケーブル"だけを使用の場合，シンクロ動作になりません．必ず"ピンプラグコード"を接続してください．

1 本機とCDプレーヤーを停止状態にします．

2 本機の〔CD SYNC〕ボタンを押します．

本機の録音が始まると約1秒後にCDは再生になり，CDシンクロダビングを開始します．
(CD SYNC 表示点灯)

3 停止は〔STOO〕ボタンを押します．

この時のCDプレーヤーは，一時停止になります．

ダビング中の一時停止について

〔A〕：本機の〔STOP〕ボタンを押す．
⇨**再スタート**：本機の〔CD SYNC〕ボタンを押す．

〔B〕：CDプレーヤーの〔STOP〕ボタンを押す．
⇨**再スタート**：CDプレーヤーの〔PLAY〕ボタンを押す．

＊CDプレーヤーが一時停止する際は，最後に再生した曲の頭に戻ります．また，カセットがテープエンドで録音を終了した場合も同様になります．

CDシンクロダビング

●開始

〔CD SYNC〕ON

カセットの動作	停 止	録 音
CDの動作	停 止	再 生

●一時停止

〔A〕：カセット側での操作

〔STOP〕ON　〔CD SYNC〕ON

カセットの動作	録音	停 止	録音
CDの動作	再生	曲の頭に戻って一時停止＊	再生

〔B〕：CD側での操作

カセットの動作	録音	録音一時停止＊	録音
CDの動作	再生	停 止	再生

〔STOP〕ON　〔PLAY〕ON

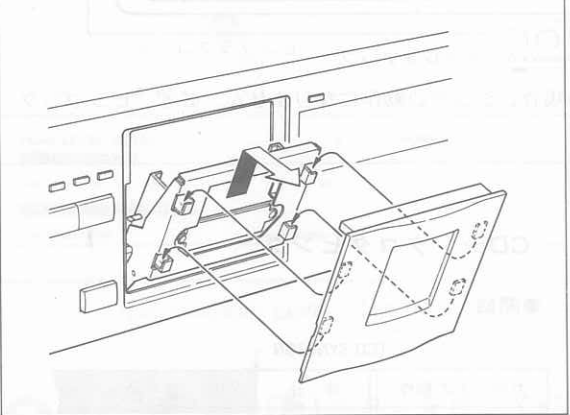
▒ はCDシンクロダビングを示す．

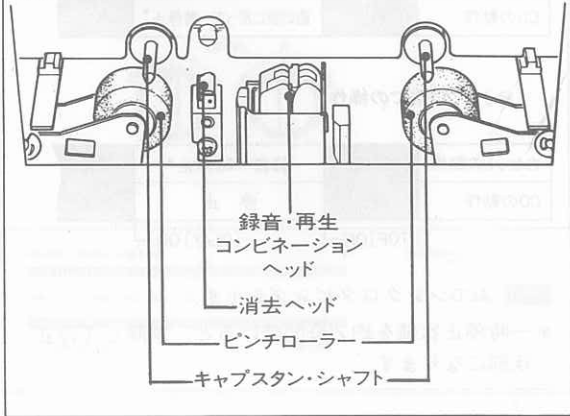
＊一時停止状態を約2分間続けると，解除して停止状態になります．

簡単なお手入れ

■清掃

ヘッドに磁性粉などのゴミが付着すると録音特性が悪化したり再生時には音飛び・濁りなどの原因になります．できれば使用のたびに，クリーニング液を綿棒に含ませてヘッドを清掃してください．なお，ピンチローラーなどのテープ走行部の汚れは，テープの巻き込みなどを引き起すことがあります．ヘッドと一緒に清掃を行なってください．(図参照)

カセットリッドの取外し方

カセットリッドを取外すとヘッド等が見やすくなり，清掃をより容易に行うことができます．カセットリッドの両端を手でつかみ矢印方向へ取出します．

清掃・消磁箇所

注　ヘッドのクリーニング液が乾くまで，録音／再生は行なわないでください．

■消磁

ヘッドは汚ればかりか磁気を帯びることがあります．磁化されたヘッドは，やはり録音／再生に悪影響を及ぼします．50時間に1回程度，ヘッド・イレーサーを使用して消磁してください．
ヘッドの消磁は，本機の電源を切り，電源を入れたヘッド・イレーサーを近づけ，近づけ，表面を数回するようにして徐々にヘッドから遠ざけます．

E-3ヘッド・イレーサー

おや！故障かな？

(ちょっと待ってください．サービスをご依頼になる前にもう一度チェックしてください．案外簡単な操作ミスやカン違いであることが多く，ちょっとした手入れで直ることがあります．)

症　状	原　因	処　置
テープ走行		
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源コード(プラグ)の差し込みが不完全	電源コード(プラグ)を差し込みなおしてください
電源が入るとテープが走り出す	〔TIMER〕スイッチが"PLAY"または"REC"になっている	〔TIMER〕スイッチを"OFF"に戻してください．
テープ再生		
音が出ない	"SOURCE"になっている	〔AUTO MONITOR〕スイッチを押して"TAPE"にしてください
	ステレオ・アンプの操作が違っている	ステレオ・アンプの操作をもう一度確認してください
	システムとの接続が悪い(誤配線等)	システムとの接続をもう一度確認してみてください ☞7
音質が悪い	ヘッドが汚れている	TZ-261のA液で清掃してください ☞16
	NRシステムが合っていない	〔DOLBY NR〕切換スイッチを録音時のNRシステムに合わせてください
	ヘッドが帯磁している	ヘッド・イレーサーで消磁してください ☞16
ハム・ノイズが出る	ハム発生源(アンプなど)に近い	ハム発生源から遠ざけてください 電源プラグを差し換えて極性をかえてみてください
音とび，音がふらつく	ピンチ・ローラーが汚れている	TZ-261のB液で清掃してください ☞16
	ヘッド，テープ走行路が汚れている	ヘッド，テープ走行路を清掃してください ☞16
	テープが劣化している	テープを交換してください
テープ録音		
録音しない	カセットの"誤消去防止"ツメが折れている	"ツメ"跡にセロハン・テープなどをはってください
	入力コードのはずれ，コード不良	接続をもう一度確認してください 入力コードを交換してください
	録音レベルが低い	〔REC LEVEL〕つまみを"0"方向へ回してください ☞9
	ヘッドが汚れている	TZ-261のA液で清掃してください ☞16
音が小さい 音質が悪い	ヘッドが汚れている	TZ-261のA液で清掃してください ☞16
	ヘッドが帯磁している	ヘッド・イレーサーで消磁してください ☞16
	"キャリブレーション"が正しく行われていない	再度"キャリブレーション"をしてください ☞14
	"キャリブレーション"をしていないのにBIAS/LEVELの各つまみが真中にない	BIAS/LEVELの各つまみを"真中"に戻してください ☞14

仕様

トラック形式	4トラック2チャンネル・ステレオホニック方式
ヘッド構成	3ヘッド：消去ヘッド×1，録音×1・再生×1　コンビネーション・ヘッド(固定式)
使用テープ	C-60，C-90タイプ カセット・テープ
テープ速度	4.8センチ
モーター	キャプスタン：ブラシレスクォーツロック　PLLサーボDCモーター×1 リール：DCモーター×1，メカニズム：DCモーター×1，パワーローディング：DCモーター×1
ワウ・フラッター	0.022%(W.RMS)，±0.04%(W.Peak EIAJ)
周波数特性（総合）	15Hz～21,000Hz±3dB，EIAJ：メタル，15Hz～20,000Hz±3dB，EIAJ：クローム 15Hz～18,000Hz±3dB，EIAJ：ノーマル
総合SN比	60dB(NR OFF，3%THDレベル，WTD)，70dB(ドルビーB NR IN 5kHz以上) 80dB(ドルビーC NR IN 1kHz以上)，84dB(ドルビーS NR IN 1kHz以上)
早巻時間	C-60テープで約85秒
入力	ライン：60mV(入力インピーダンス50kΩ)，CDダイレクト：110mV(入力インピーダンス50kΩ)
出力	ライン：0.3V(負荷インピーダンス50kΩ以上)，ヘッドホン：2mV(8Ω)
電源	100V AC，50/60Hz
消費電力	23W
外形寸法	471(幅)×149(高さ)×355(奥行)mm(サイドパネル含む)
重量	10.5kg
付属品	入出力コード2本(1組)，リモコンRC-394，乾電池(単3)×2

＊この仕様は特に表示した項目を除き，当社基準テープを使用して測定したものです.
＊仕様および外観は，改善のため予告なく変更することがあります.
＊FM放送やレコード，コンパクトディスクなどから録音したものは，個人的に楽しむなどのほかは，著作権法上の権利者に無断で使用できません.

解説

ドルビーSについて

ドルビーSタイプはプロ用として使用されその素晴らしい音質とNR効果で評価の高いドルビーSR(スペクトラル・レコーディング)タイプのノイズ・リダクション・システムの動作原理に基づいて開発された高性能NRで,以下の特徴を持っています.

- 録音時に低レベル信号をブーストし再生時に下げることにより，高域で24dB，低域で10dB ノイズが低減されます.
- 雑音変調のような副作用を避けるため，高レベル信号がない場合は，たとえスペクトラム外に高レベル信号があっても，一定利得となる動作(最小処理の原理)が行われます.
- 高域スライディング・バンドと低域での固定バンドの組み合わせ処理回路により,それぞれの長所がとられ，短所が押さえられます．(動作置換)
- 高域，低域でのヘッド・ルームが拡大され，歪みが低減されます．(アンチ・サチュレーション)
- プロ業務用ドルビーSRの流れを汲んだ高品位な音質です.

本機はマイコンを使用しておりますので，外部からの雑音等によって正常な動作をしなくなることがあります．このような場合は〔POWER〕スイッチを押して電源を切り，電源コードをコンセントから抜いて，約1分以上経過させたのち再びコンセントに差し込み，始めから操作をしてください.

アフター・サービスについて

■保証について

1．この製品には保証書を別途添付しております．保証書は，販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので，記載内容をご確認の上で取扱説明書などと一緒に大切に保存してください.
2．保証期間はお買上げ日より1年です．保証期間中は，保証書の記載内容により，当社サービス機関が修理いたします．その他詳細につきましては保証書をご参照ください.
3．保証期間経過後，または保証書を提示されない場合の修理などについてご不明の場合は，お買上げの販売店または裏表紙に記載された当社もよりの営業所などにご相談ください.
保証期間経過後，修理によって機能が維持できる場合は，お客様のご要望により有料修理いたします．なお，営業所などの所在地および電話番号は，住所欄に記載してあります.
4．この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打切り後6年です．この期間は通商産業省の指導によるものです.

■サービスのご依頼について

万一，故障が発生し修理を依頼される場合は，次の事項を確認し，お買い上げのお店または住所欄に記載の各営業所などにご連絡ください.

1．型名，型番
2．故障の内容
3．お買い上年月日「○年○月○日」
4．お名前，住所，電話番号

■お客様のご相談について

製品に関する技術的なお問合せなどは,AV技術相談室にお問合せください.

AV技術相談室　☎(0425)60-7761(直通)
〒190-12 東京都武蔵村山市伊奈平2-11-1

ドルビーHXプロ DOLBY HX PRO について

HXとはヘッドルーム・エクステンションの略で，高域の拡張という意味です．このシステムは，デッキの録音時，録音ヘッドに加わる高域信号が，バイアスとなって動作することを補正する回路です.
録音時，録音ヘッドにはバイアス信号(200kHz程度の正弦波)を加えていますが,実際には音楽信号として録音ヘッドに加えられる信号のうち，高域の信号がバイアスとなって加わって動作し(自己バイアス作用)，高域信号に対してはオーバーバイアスとなり，ハイ落ちの特性になってしまいます.
ドルビーHXプロは，この点の改良として，信号中の高域成分を検出し，それが大きいときはバイアスを小さくするよう自動的にコントロールすることによってハイレベル録音における高域の低下を改善し(下図参照)，結果的に高域特性の優れたテープを用いたのと同じになります.
またドルビーHXプロのもう一つの特徴は，録音のときだけ動作する回路なので，再生時には何の処理も必要なく，つまりドルビーHXプロのないデッキでも再生できる画期的なシステムと言えます．一般にドルビーHXプロ内蔵製品にはHXプロのためのON/OFFスイッチがないのが普通です.

最適バイアスと高域信号による変動

カセットデッキでの高レベル周波数特性
改善効果の例（ノーマルテープ使用時）